

目次

英和の図書館にしかない本・・・p1-4

図書館からのお知らせ・・・p4

英和の図書館にしかない本

英和の図書館は 2025 年 3 月末現在で蔵書数が約 33 万冊となりました。収容可能冊数は 32 万冊ですので、既に超過しており、狭隘（スペースが狭くゆとりがないこと）が深刻な問題です。

新着図書を入れる一方で、除籍（蔵書から除外すること）を進めなければなりません。本学の研究・教育・学習に欠かせない資料を除籍してはいけませんので、除籍資料を選択する際は、代わりとなるデジタルコンテンツ（電子ブックや電子ジャーナルなど）があるか、改訂版を所蔵しているか、他の図書館が複数所蔵しているか、学院に関連する本ではないか、など様々な確認をした上で行っていきます。

いくらデジタルコンテンツがあったとしても、所蔵館が少ない本は、永く大切に保管して、現物を利用したい方に提供しなくてはなりません。

デジタルもない上に現物の所蔵館が少ない資料は、社会にとっても貴重な本と言えます。今回はそんな英和の図書館にしかない本をいくつかご紹介したいと思います。

なお「英和の図書館にしかない」の根拠は、CiNii Books^{※1}の所蔵が英和の図書館のみ、かつ NDL SEARCH^{※2}で国立国会図書館ほか他館の蔵書が確認できないものと設定しました。

※1 CiNii Books サイニイブックス <https://ci.nii.ac.jp/books/>

日本にあるほとんどの大学図書館の蔵書をまとめて検索できるデータベース。

※2 NDL SEARCH 国立国会図書館サーチ <https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

国立国会図書館の所蔵資料やデジタル資料を検索したり、閲覧やコピーを申し込んだり、様々なサービスが利用できます。

また、国立国会図書館とデータ連携している全国の図書館の所蔵資料を検索できます。



横江幸『忘れ草』（出版社不明, 1932.11）

1900 年(明治 33 年)に東洋英和女学校を卒業され、短期間ですが英和で教員もされていた横江(小関)幸さんの歌集です。

この本を発見した当初、横江幸さんについて調べようと思いましたが、著作はこれ以外になく、この本自体にも短歌以外、前書き・後書き、著者紹介などはなく、ネット等で調べても何も見当たりませんでした。

宣教師・ハミルトン先生の寄贈印が押してあったことと、中ほどに3枚のスケッチが挿入されていて、その1枚(下図)に“ミス、ブラックモアの住居”と書かれていたことから、英和に関係する方と思われるので、学院史料室に調査をお願いしたところ、すぐ回答が頂けました。

卒業生名簿や『東洋英和女学校五十年史』と『東洋英和女学院百年史』にお名前があり、東洋英和女学校の卒業生であり、教員でもあり、同窓会委員でもあるということが分かりました。

『東洋英和女学校五十年史』巻末の職員一覧 p352 に「小関(横江)幸 教員 英語、聖書 明治三十三四年頃」の記載あり。

『東洋英和女学院百年史』 p138 に「一九〇〇(明治三三)年卒の結城(古屋)登代子は、卒業の年から一九〇九年三月まで英語・訳読を担当し、同期の小関(横江)幸も、卒業後短期間ながら英語・聖書を教えた」の記載あり。



左 ミセス、マクニールの家 右 ミス、ブラックモアの住居

また史料室から、左図はおそらくブラックモア先生の軽井沢の別荘「ブルックサイド・コテージ」と思われますとのコメントもありました。

「ブルックサイド・コテージ」は1909年頃に建てられ、ブラックモア先生はここで、夏休みに家に帰れない寄宿生を預かっていました。

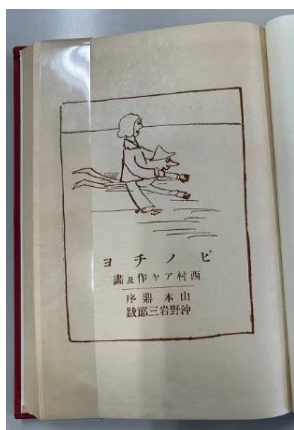
詳しくは『史料室だより』(No.87, 2016.11.4)をご参照ください。

このスケッチ右上には「14th August」と書かれておりますので、おそらく横江さん

も同行され、ブラックモア先生とともに、ここで夏休みを過ごされたものと思われる。

出版から93年が経過した本ですが、表紙の花の色も鮮やかで美しい装丁のまま残っています。希少本としても、英和の史料としても、大切に保存しておきたいと思えます。

迅速に調査、ご回答くださった学院史料室に心より感謝申し上げます。



西村アヤ作及畫『ピノチヨ』(文化生活研究会, 1920.5)

1927年3月10刷を所蔵

ディズニー作品でおなじみの「ピノキオ」が、日本語で書かれた最初の本です。

作・画の西村アヤさんがこの作品を書いたのは11歳(満10歳)の時ですが、イタリア語の原書から翻訳したのではなく、英語に翻訳されたものを父親の西村伊作氏^{※3}が毎晩ご飯の後に、日本語に訳しながらお話してくれたのを、記憶をもとにまとめたものであることが「はしがき」に書かれています。

また同じく「はしがき」に、英訳本は佐藤春夫^{※4}によるものであること、忘れたところを再度読んで欲しいと父親にお願いしたが断られたため、その部分は飛ばしたことも書かれています。
そのためピノキオがウソをつくと鼻が延びるエピソードほか、省略されている部分が多く、原書との違いを詳しく比較・読解した研究文献^{※5}も出版されています。

この本を受け入れた、短期大学図書館時代の図書原簿を見ると、1987年12月に東洋英和幼稚園から移管されたことが分かりますが、どういう経緯で幼稚園にあったのか、なぜ短大図書館に移管されたのか、今となっては分かりません。

※3 西村伊作 にしむら-いさく 1884-1963 大正-昭和時代の教育者。
明治17年9月6日生まれ。大正10年与謝野鉄幹(よさの-てつかん)・晶子(あきこ)らの協力で文化学院を創立し、芸術を重視した自由な学風の教育をめざす。
”にしむら-いさく【西村伊作】”, 日本人名大辞典, JapanKnowledge,
<https://japanknowledge.com>, (参照 2025-02-14)

※4 佐藤春夫 さとう-はるお 1892-1964 大正-昭和時代の詩人,小説家。
明治25年4月9日生まれ。生田長江(ちょうこう),与謝野鉄幹らに師事。「スバル」「三田文学」などに詩を発表,小説「田園の憂鬱(ゆううつ)」で注目される。大正10年「殉情詩集」を刊行。また評論随筆集「退屈読本」,中国詩を訳した「車塵(しゃじん)集」などがある。昭和35年文化勲章。昭和39年5月6日死去。72歳。和歌山県出身。慶応義塾中退。作品はほかに「都会の憂鬱」「晶子曼陀羅(まんだら)」など。
”さとう-はるお【佐藤春夫】”, 日本人名大辞典, JapanKnowledge,
<https://japanknowledge.com>, (参照 2025-02-18)

※5 竹長吉正『ピノッキオ物語の研究』(てらいんく, 2017.6), p55-79, 「第4章 西村アヤ『ピノチヨ』の読解」



【吉岡久編】『おもかげ：牧師吉岡芳之助小傳』(【吉岡久】，【1958】)

大正から昭和にかけて約40年間カナダで牧師をされていた吉岡芳之助さんという方の本です。
巻頭の序文、略歴等を拝見しますと、吉岡牧師の死後に妻の久さんが、ご本人によるエッセイや所縁の方たちからの寄稿文とともにまとめたと書かれています。
永く英和の評議員をされていた鳥居坂教会牧師の濱崎次郎先生からの寄贈で英和の図書館の蔵書となりました。

吉岡牧師と濱崎先生とのつながりについては分かりかねますが、お二人の年譜を拝見しますと、同じ時期に関西学院大学に在学されていたようです。

昨年9月、とある地方の観光協会から当館にお電話がありました。アメリカから旅行でいらした方が、英和の図書館におじい様の本があるので見たいと言っている、来館して本を見ることは可能かとの問い合わせでした。

調べたところ確かに当館以外の所蔵が見当たりません。本来、外部の方が利用する場合は紹介状が必要となりますが、現在アメリカの大学で教員をされていたらとのお名前からご所属が確認できた

こともあり、当時の館長・小久保先生のご承認を頂いた上でご来館頂くこととなりました。

電話の翌々日、無事ご来館頂き、この本を手に取り、必要な部分はコピーをお取り頂くことができました。カウンタースタッフの話しではとても喜んでいらしたとのことでした。

蔵書を永く大事に保管することはもちろん重要ですが、所蔵情報を適切に公開し、利用を希望する方にご利用頂けるようにすることの重要性も再認識できる機会となりました。

図書館からのお知らせ



図書館サポーターWELLのページが出来ました

図書館ホームページに図書館サポーターWELLのページができました。

図書館サポーターWELLは、本や図書館が好きな英和生と図書館職員からなる集まりで、2023年11月で発足10周年を迎え、昨年度は功績が認められ、学長賞も受賞いたしました。

「WELLってどんな団体?」「HISTORY」「最近の活動実績」「WELLに入会するには?」「WELLについてよくある質問」がご覧いただけます。

ご興味のある方はぜひアクセスしてみてください。

新規メンバーも絶賛募集中です。



延滞ペナルティが変更されました

2025年4月1日から延滞ペナルティが以下の通り変更されました。

○ 学部生(科目等履修生・単位互換生を含む)

新)遅れた日数～最長7日間貸出停止 旧)遅れた日数分貸出停止

○ 学部生以外の利用者(院生、教職員ほか)

新)ペナルティなし 旧)返却当日は貸出停止

ルールが緩和されますが、ほかの利用者の迷惑にならないよう、返却期限はお守りください。



2つの展示を実施中です

エントランスの展示コーナーでは「東洋英和女学院 創設者と年史資料」と題して、創設者のパネル、年史資料をキャプション付きでご紹介しています。

また1Fカウンター前のミニ展示コーナーでは「英和新生活応援ナビ2025」と題し、新生活や英和での大学生活に役立つような本を展示中です。貸出も可能です。

ぜひご覧ください。

(編集担当:青山)

図書館だよりは図書館ウェブサイトからバックナンバーも見ることができます

<https://sites.google.com/toyoeiwa.ac.jp/library/kankou/toshokandayori>

